

中学校（第1学年）「総合的な学習の時間」

○授業のねらい

- ・思春期の心の変化や性への関心、不安や悩み等に対する向き合い方について理解を深める。
- ・生命の尊さを学び、生命を大切にする考え方、自分や相手を尊重する態度を身に付ける。

○指導形態（工夫したこと）

- ・生徒の発達の段階に応じた指導となるよう、学年ごとに内容を設定し、全学年で「いのちの授業」を実施した。
- ・保健体育科、保健分野「心身の機能の発達と心の健康（イ）生殖に関わる機能の成熟と適切な行動」と関連させて指導した。
- ・道徳科の内容項目「生命の尊さ」と関連させて指導した。
- ・生徒の実態を把握するため、事前にアンケートを実施し、回答状況を基に外部講師の助産師と講話内容について検討した。

授業の内容

<実際の授業で工夫したこと>

導入

- ・生徒と授業者が第1学年の「いのちの授業『命の誕生』」についての指導計画を共有し、学習の見通しをもたせた。

展開

- ・講師の説明だけではなく、講師と生徒、生徒と生徒が対話する場面を設定した。
- ・胎児模型を用いた体験的な活動を取り入れた。

終末

- ・生徒が、当事者意識をもって「命の誕生」について学び、多様な考えに触れることができるよう、本時の学習を基に探究課題を設定し、レポートを作成・交流した。



「胎児模型を用いた赤ちゃん抱っこ体験の様子」

<児童生徒や指導した教員等の感想>

- ・受精の仕組みや胎児の成長の様子がよく分かった。
- ・自分が出産したら、最初に「生まれててくれてありがとう」、「よく頑張ったね」と伝えたい。
- ・口もプライベートゾーンであることが分かった。これからは人との距離感を大切にしていきたい。
- ・自分が生まれるまで親がどれだけ自分と向き合ってくれたのかが分かった。来年も講師の先生の話を聞くのが楽しみになった。
- ・「命の誕生」に関わる成長過程を理解することにより、自分がかけがえのない一人であることを強く認識することができた。
- ・プライベートゾーンについて理解を深めることにより、相手と適切な距離感をもって関わることが、相手を思いやることにつながることに気付くことができた。
- ・講師の先生が生徒たちと関わったり、質問を投げかけたりする形式の講話で、生徒たちも集中して話を聞く様子が見られた。

授業実施の成果と今後に向けて

○成果

- ・プライベートゾーンの意味を知ることにより、生徒が当事者意識をもちながら、相手との関わり方について考えることができた。
- ・「命の誕生」についての学習を通じて、生徒が自己を肯定的に捉える様子がうかがえた。
- ・生徒が「命の誕生」について自己選択した探究課題に主体的に取り組むことができた。

○今後に向けて

- ・外部講師による講話を計画的、継続的に実施し、生徒一人一人に必要感のある探究課題を設定させる。
- ・教育計画を見直し、「生命（いのち）の安全教育」の更なる充実を図る。